

感謝の印は「ありがとう」

御船町立御船中学校 1年 石田 郁奈

私には感謝したい人がたくさんいます。その中でも特に感謝の気持ちを伝えたいのは、私が小学校5年生のときの担任の先生です。

私はそのころ、友達との関係に悩んでいました。友達とうまくいかなくて、毎日悩んでいました。朝から帰るまでのほとんどの時間を一人で過ごしていた私に、「……」と、先生はいつも声をかけてくださいました。その一言に私はいつも救われました。人権学習では、嫌だったことを話していい時間をとってくださいました。何人かの人自分から立ち上がって自分の思いを話し出しました。私も何か言おうと思いましたが、なかなか勇気が出せず、結局言い出せませんでした。そのとき、先生が泣いておられるのが目にとまりました。きっと、私達一人一人のことを大切に、大切に考えくださっているのが心からわかり、何だかすごく嬉しくなりました。

今回、道德の時間に学習した「打撃の神様」と言われた川上哲治さんが苦勞していたときに周囲の人に助けられ、お互いを支え合って生きていたという話を思い出しました。

私も、辛いときに支えてくださった先生がいて、前向きに頑張ることができました。そして、先生への感謝の気持ちと同時に先生のようにになりたいという憧れの気持ちが強くなりました。

先生の字がきれいだったり、授業がおもしろかったり、傷ついている人がいれば助けたりと、人として憧れるところもあります。そんな先生のような人になれたらと思っています。私の友達が誰かを傷つけていたら、自分から注意できるくらい人を大切にする心を学び、それを身に付けていく大切さも教わりました。

こうやって出会った人に教わったこと、感謝したいことを考えていると「ありがとう」と伝えなければならない人がすぐ近くにいると思えてきました。毎日「ありがとう」を伝えられるのであればそうしたいのですが、今では恥ずかしいという思いが大きくなり、こういった作文を書く機会でしか感謝の気持ちを伝えられなくなってきました。だからこそ、今、この作文の中で「ありがとう」というこの気持ちを伝えたいです。いつかは恥ずかしさを乗り越え、私を支え続けてくださったあの先生に必ず「ありがとうございました」と言える自分になりたいと思います。

そして、私もいつか誰かに「ありがとう」そう言ってもらえる立派な人になりたいと強く思います。

